エミシの強制移住
日宋貿易の広がり

人々の移動と定着 掘り下げる

古代東ユーラシア研究センター シンポ

社会知性開発研究センター／古代東ユーラシア研究センター（研究代表＝飯尾秀幸文学部教授）のシンポジウム「東ユーラシアにおける移動と定着」が11月19日、神田キャンパスで開かれた。

研究者3氏が講演

ユーラシア大陸の東側全体を視野に、人や集団の流動と土着化を考察する今年度2回目のシンポジウム。日本古代のエミシの強制移住、中世の日宋貿易の広がりについて、歴史学と考古学の立場から3氏が講演した。

日本大学教授の武廣亮平氏は、エミシに対する8～9世紀の強制移住政策について語った。エミシを「独自の言語を持ち、優れた戦闘能力を有した武人」と定義。「戦乱で捕虜になったり投降したエミシは、個別に西日本の沿岸警備や北方交易の交渉役に使われたが、坂上田村麻呂の征夷後は族ごとの集団移住が推進された」と説明。政策が転換した理由を「エミシが多く懐柔費用のかさむ陸奥・出羽両国の財政負担軽減と、国家に敵対したエミシ勢力の分断のため」とした。

福岡市経済観光文化局文化財部埋蔵文化財課の田上勇一郎氏は、「博多遺跡群」の発掘調査の成果を報告。11世紀後半から中国商人がチャイナタウンを形成し、国際貿易都市として繁栄した博多の発展の経過を出土品と遺構から説明した。

東北大学教授の柳原敏昭氏は、鹿児島県南西部に存在した交易拠点「万之瀬川下流地域」（南さつま市）を取り上げた。中世の古文書や発掘調査から、河口に日本列島各地や中国とつながる港があり、12～13世紀には活発な経済活動が行われていたと説明。九州北部から西部の沿岸に「トウボウ」（唐坊、東方、当房など）という地名が多いことを挙げ「全て海上交通に適した場所で、博多の『唐坊』同様、中国人居留地があったと類推できる」と語った。

研究者や歴史ファンなど約150人が参加、活発な質疑応答が行われた。

最後に、荒木敏夫文学部教授が「日本列島の各地にさまざまな時代、さまざまな人々の移動と定着があった。こうしたありようを掘り下げることで、日本の歴史はどう見直されていくのか興味深い」と締めくくった。

聴衆を前にあいさつする飯尾代表

講演を終え、参加者からの質問に答える講師陣

教育課程指定連携

ネットワーク情報学部 4高校と協定

ネットワーク情報学部（江原淳学部長）は高校4校と教育課程指定連携に関する協定を10月31日付で締結した。

この協定は、本学ネットワーク情報学部と高校4校（別項参照）の友好関係に基づき、双方の教育課程の連携を通じて相互に教育理念及び教育方針を尊重しつつ教育内容等について理解を深めることとにより、大学教育及び高等教育の接続及び活性化を図ることを目的とする。

連携に基づく教育課程プログラムを行うほか、2017年度入試から教育課程指定連携型推薦入学試験を実施する。

【協定締結高校・課程】
▽千葉県立袖ヶ浦高校情報コミュニケーション科
▽千葉県立柏の葉高校情報理数科
▽東京都立晴海総合高校総合学科
▽川崎市立川崎総合科学高校情報工学科

適性ある入学者期待

江原学部長のコメント

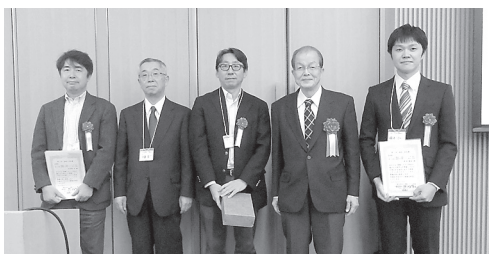
ネットワーク情報学部は専門性の高い学部で、志願者には動機と適性が求められます。情報を学んでいる高校生が1、2年次から本学部を知り授業に参加したりすることで、進路選択はより適切なものとなることが期待できますし、本学部としても学ぶ動機が強く情報教育に適性のある入学者が期待できます。高校3年生の夏に行けるところから選ぶ指定校制度でなく、高校と大学とが責任をもって教育内容をすり合わせたこの制度が、志願者自身とその将来に寄与できるところは大きいと考えますので、今後も積極的に取り組みたいと思っております。

情報システム学会ベストペーパー賞

経営・森本准教授が受賞

情報システム学会第12回全国大会・研究発表大会（11月12、13日、富山市）で、森本祥一経営学部准教授が「情報システム論に基づく地域活性化アプローチの実践と効果の分析」を発表、最優秀のベストペーパー賞を受賞した＝写真。

森本准教授は2014年、新潟県から「大学生の力を活かした集落活性化事業」の調査・研究を受託、ゼミ生とともに限界集落の南魚沼市辻又の活性化に取り組んでいる。今夏、活動記録『大学生、限界集落へ行く』（専修大学出版局）を刊行。今回の発表は、一連の活動を情報システム学の側面から振り返り、その結果を報告した。



奥田名誉教授（右から2人目）と執筆陣

奥田名誉教授ら 第1回浦記念賞

また、同大会で第1回浦昭二記念賞の表彰式が行われ、『コンピュータ概論―情報システム入門』（共立出版）を出版し、継続的な情報リテラシー教育を実践したとして、編著の奥田勝臣名誉教授ほか本学の執筆陣（渥美幸雄経営学部教授▽植竹朋文同教授▽大曽根匡同教授▽森本祥一同准教授▽綿貫理明ネットワーク情報学部教授）と出版社の共立出版（石井徹也氏）が受賞した。

同書は1998年発刊。情報システム入門、コンピュータ概論に関する教科書としてロングセラーが続いている。文理問わず全国の多くの大学で採用されている。

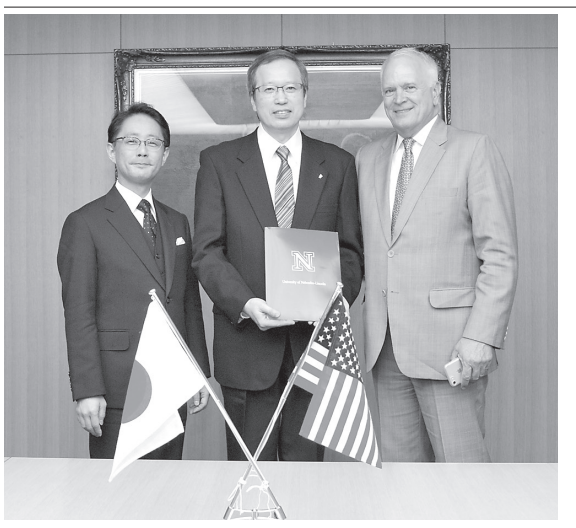
2017年2月に第7版刊行予定。

※浦昭二記念賞＝情報システム学会設立に尽力した故浦昭二氏の功績を記念し、情報システム分野で社会に貢献している個人や組織を顕彰する。

専修大学

両校の交流より深く

米・ネブラスカ大リンカーン校



来学したファレル国際交流担当理事と佐々木学長、高橋センター長（右から）

11月7日、専修大学の国際交流協定校である米国ネブラスカ大学リンカーン校のトム・ファレル国際交流担当理事が神田キャンパスを訪問した。佐々木重人学長、高橋裕国際交流センター長らと懇談。これまでの実績を振り返り、今後の交流の深化について意見交換した。

同校は1985年、本学2番目の協定校として協定を結び、学生や教員の交流を盛んに行ってきている。

佐々木学長は「両校には長い交流の歴史がある。今後とも関係が続いていくことを願っています」と歓迎。ファレル氏は「双方の学生や教職員が学ぶ機会となり、有意義な関係ができている」と応えた。

岡田准教授 研究助成に

大川基金

岡田謙介人間科学部准教授の研究「オンライン調査における反応時間と反応スタイルの統計モデリング」が、公益財団法人大川情報通信基金の2016年度研究助成（人文・社会科学分野）に採択された。

同基金は情報通信分野の顕彰、研究助成や研究者・技術者の育成を行っている。助成対象は情報・通信分野において、独創性のある、先進的または社会的に有用な調査・研究。

最終講義ご案内

本年度末で17教員が定年退職されます。最終講義を行うのは次の方々です（12月14日現在）。

学部学科に関係なく、どなたでも受講できます。卒業生もご参加ください。

◆池本正純経営学部教授
1月11日(水)13時5分～
生田キャンパス1010
2教室

◆加藤茂夫経営学部教授
1月12日（木）9時～
生田キャンパス1020
3教室

◆荒木敏夫文学部教授
2月4日（土）14時～
生田キャンパス1010
2教室

◆菊地健三文学部教授
1月16日(月)14時50分～
生田キャンパス977教室

訃報

小野寺忍氏（おのでら・しのぶ）法学部教授。11月24日、67歳で死去。2010年入職。主な担当は、民事訴訟法。